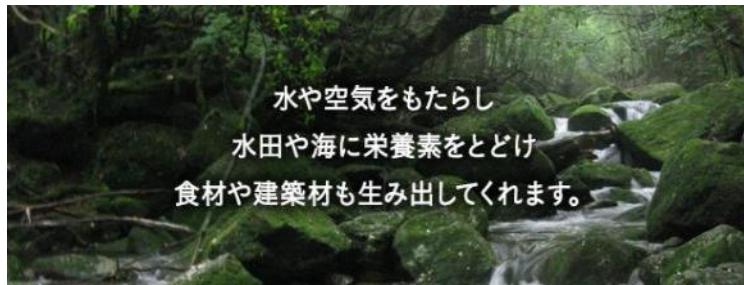


# 報徳思想を基軸とした 森林組合経営の実践

## 目 次

1. 掛川市森林組合の紹介
2. 日本林業・森林組合の現状と課題
3. これからの森林組合にかかる期待
4. 二宮尊徳の生い立ち・功績・報徳思想
5. 協同組合と報徳思想の歴史的親和性
6. 報徳と林業、報徳思想と森林組合経営
7. 掛川市森林組合の実践事例

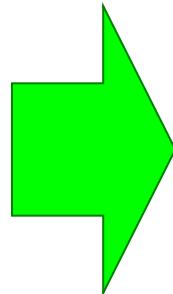


至誠（しせい）

勤労（きんろう）

分度（ぶんど）

推讓（すいじょう）



誠を尽くして

よく働いて

分をわきまえ節約し

余れば他の為に使え

- \* “四つの徳目”は、儒教の「仁・義・礼・智・信（五常）」を土台として再構成された実践倫理であり、森林組合の人づくり・組織づくりの指針としても極めて親和性が高い

## 積 小 為 大

- ・ 大きな事をしたければ小さな事を怠らず勤めるがよい
- ・ 小が積もって大になる、これを積小為大という

- 二宮尊徳は「自然の摂理＝人の道」と說いた
- 森の循環（植える→育てる→伐る→また植える）は人と経済と地域の循環に通じる
- 協同組合の理念（共助・共育・共栄）はまさに報徳の実践形である
- 今、森林組合経営の羅針盤として「報徳思想」を再確認する